

ハーモニー

第31号 2003年6月1日発行
日本養護教諭教育学会

日本養護教諭教育学会

事務局：〒448-8542

刈谷市井ヶ谷町広沢1

愛知教育大学養護教育講座
後藤研究室

TEL&FAX 0566-26-2491

振替口座：00880-8-86414

目 次

理事長あいさつ	2
前理事長あいさつ	2
新理事の抱負	3
第11回学術集会へのお誘い.....	4
第11回学術集会(徳島集会)のご案内-第2報-	4
ホットニュース：「医療的ケア」をめぐる情勢.....	5
「養護教諭」の英訳作業について	5
学会誌第7巻投稿原稿の募集.....	6
研究助成金申請者の募集	6
2003年度学会共同研究の発足について	7
理事会等の活動報告	7
新入会員	8
お知らせ、編集後記	8

◆理事長あいさつ◆

本学会の発展を願って

理事長 天野敦子(前愛知教育大学)

このたび、理事の互選により大谷理事長から理事長の任を引き継ぐことになりました。私は、学会員として、初代の堀内理事長の膝元で前身の研究会の頃からの大変な作業を見させてもらっていました。今日の学会があるのはその頃の役員の方々のご努力のお陰であると思っています。私自身は第6回学術集会の実行委員長を担当したと編集委員を昨年担当しただけです。したがって、このような大役が果たせるか不安ですが皆様方のお力をおかりしながら頑張っていきたいと思っています。養護教諭に関する養成教育ならびに資質の向上等に関して、時間をかけて語り合い討議できる学会のあり方はこれからも大切にしたいと思っています。

養護教諭の養成教育にかかわる問題として医療的ケアをはじめ新たな課題が生じています。学会としてはそれら種々の問題に対して研究的に取り組み、根拠のあるデータを提示していく必要があります。養護教諭が専門に学べる大学院が増えたこと、休業制度による大学院での学びが可能になったことなどにより養護教諭を取り巻く研修環境が整ってきたことは、本学会にとって大いに期待したいところです。

新理事体制は、有能な後藤理事・村瀬両理事以外はすべてはじめてですが、皆様の協力を得ながら頑張っていきたいと思っています。

今日のような400名を越す規模の学会にまで発展してきましたのは、お二人の理事長並びに理事の方々の並々ならぬご尽力によるものです。しかし、規模の拡大により事務量が増加してきており、それぞれに本職を抱えながら理事としての役割を果たすためには限界にきています。学会の事務局体制を整えていくためにはさらに会員数を増やす必要があると考えていますので、皆様のご協力をお願いします。

◆前理事長あいさつ◆

今の時代にあって…

前理事長 大谷尚子(茨城大学)

この3月末、理事(理事長)を退任致しました。本会の設立準備から学会という名称を冠し、学術集会を重ね、学会誌を発行するに至るといふ本学会の成長期を理事としてかわらせていただき嬉しく思うと共に、会員・理事の皆様のご協力に対しまして、お礼申し上げます。

丁度、理事のバトンタッチをした時期は、イラクの子どもたちが「衝撃と恐怖」作戦による爆撃で心身の大打撃を受けている真最中でした。また、わが国でも4月に教育関係15学会が「教育基本法改正問題を考える」公開シンポジウムを開催したり、社会の動きが急展開しています。私たちは今、とんでもない時代に生きなくてはならなくなりました。

日露戦争による被害とも言える子どものトラホームの処置をするために登場した学校看護婦、そして太平洋戦争直前に富国強兵策の一環でもあった養護訓導の制度。今の時代を見ながら、養護教諭の歴史が頭の中をよぎります。今の時代に、上記のような歴史を学んだ者は、その学びをどう還元していけばよいのでしょうか。

学校保健(養護)の教育の意義として、小倉学氏は①健康権の保障、②学習権の保障、③教育の目的(心身の健康な国民の育成)遂行をあげています。上記の3点は、日本国憲法と教育基本法に依拠するものであり、そのことを踏まえての児童生徒等への「養護」です。ヘルスプロモーションも「平和」の実現抜きには推進できません。

退任にあたって、本学会がこの時代だからこそ一層、わが国のみならず世界の子どもたちの養護を視野においた養護教諭教育に関する学術研究に、励んでほしいと願っています。

新理事の抱負

◇植田誠治（茨城大学教育学部）

「研究活動」を担当させていただくことになりました。研究は、学会活動の基盤となるものです。会員各位のご協力をいただきながら、本学会の研究活動の活性化と質的向上に努めたいと存じます。早速に研究助成金対象研究の募集を開始いたします。ふるってご応募ください。

◇後藤ひとみ（愛知教育大学）

昨年度に引き続き、編集委員長を担当します。さらに、当研究室に学会事務局を置くことになりました。新理事会は研究会が学会に名称変更してから第3期の理事会になりますが、学会事務局と編集委員会事務局が同じ場所に置かれるのは初めてのことです。この1年で事務体制の合理化を図り、これからの時代に見合った学会づくりに努めたいと思います。

なお、昨年委嘱した編集委員3名が理事になりましたので、次の方々に編集委員をお願いしました。ここに報告致します。

石田妙美（東海学園大学女子短期大学部）
奥村陽子（岡崎市立大樹寺小学校）
鈴木裕子（横浜市立高田東小学校）

50音順、敬称略

◇竹田由美子（神奈川県立衛生短期大学）

2003年度より理事になり、庶務を担当します。以前より、大学院修了の養護教諭が増加し職務内容にも変化が見られ、養護教諭に力量がついたと自負していました。最近、「看護師・保健師の資格がない養護教諭の仕事ぶり」に疑問をもつ方に出会いました。理事として養護教諭の養成教育や、ライセンスがなくても突発事故や病気に対応できる能力があることを実証し、啓蒙する活動に取り組みたいと考えています。

◇徳山美智子（愛知女子短期大学）

本学会は、創設期を経過し、充実期に在ると言えます。国内唯一の養護教諭独自の学会としてその基盤を築かれ、今日に至るまで関わってこられた諸氏に敬意を表します。それと共に、新世紀の本学会を展望したとき、事務局担当として考えることは、会員数の倍増とそれにあつた事務局の整備です。やはり組織には人・物・マネー・管理の4Mが不可欠です。みなさまのご協力を切望します。

◇村瀬久美（愛知県立加茂丘高等学校）

2000・2001年度は、ハーモニーの編集をさせていただき、会員の皆様には大変お世話になりました。

2002年度より、会計を担当しています。皆様の貴重な会費を、うまく運用できるよう努力していきます。軌道にのってきた学会活動がさらに発展できるように頑張ります。ご協力をよろしくお願いします。

◇山崎隆恵（神奈川県立藤沢北高等学校）

機関紙「ハーモニー」を担当します。養護教諭を取り巻く最新の情報を最優先に載せるために、自分のアンテナを高くめぐらしておきたいと思います。そして、会員の方々の積極的な意見・情報交換の場として活用できる機関紙にしたいと考えています。「児童生徒のために養護教諭として何ができ、何をすべきか。」を問い続ける姿勢が大切と考えています。



第11回学術集会へのお願い

実行委員長 中安紀美子
(徳島大学総合科学部)

第11回学術集会のメインテーマは、養護教諭の教育実践の質を子どもの発達支援の立場から問い直すこととしました。子どもの心や身体の健康に関わる養護教諭の実践が、子どもの発達保障に収斂されていく支援でなければ、教育職としての養護教諭の存在基盤が揺らぐのではないのでしょうか。第11回学術集会では、特別講演とシンポジウムを関連づけてこのテーマを深く追求できればと考えています。特別講演講師の中堀豊先生は小児科学、公衆衛生学、遺伝学の研究者として学際的な立場から貴重な御示唆がいただけると思います。また、健康増進法における学校保健の新たな役割や医療的ケアなど、さまざまな職種との連携についても差し迫った課題と考え、ワークショップを企画しました。

多くの皆様のご参加をお待ちしています。

第11回学術集会(徳島集会)のご案内

— 第2報 —

1. 期日：2003年10月11日(土)13時～17時
10月12日(日)9時～16時
2. 会場：徳島大学工学部共通講義棟
3. メインテーマ「子どもの発達支援の立場から養護教諭の教育実践を考える」
4. 内容

— 1日目 —

- 1) 開会
- 2) 学会共同研究発表「健康教育に必要な養護教諭の能力に関する研究」
- 3) 英訳ワーキング報告

4) ワークショップ

「様々な職種と養護教諭の連携を考える」

- ① 健康管理における学校看護師
- ② 健康教育における学校栄養職員
- ③ 健康相談活動におけるスクールカウンセラー

5) 特別講演：演題「医学・保健学のこれからと子どもの未来(仮)」

中堀豊(徳島大学大学院医学研究科教授)

6) 懇親会：ホテルグランドパレス徳島

— 2日目 —

1) 一般口演

2) シンポジウム

「子どもの発達支援と養護教諭の役割」

- ① 教育学の視点から：湯浅恭正(香川大学)
- ② 医学と教育の接点から：高橋香代(岡山大学)
- ③ 実践者の立場から：現職養護教諭
- ④ 実践者の立場から：現職養護教諭

3) 総会

4) 一般口演

5. 研究発表及び参加

- 1) 発表者及び共同研究者は、本学会の会員に限ります。
- 2) 演題申込締切：2003年7月10日(木)必着
発表希望者は同封の申込票で送付(FAXも可)
- 3) 抄録原稿締切：2003年8月8日(金)必着
演題受理後抄録原稿作成要領を送ります。
- 4) 宛先：〒770-8502 徳島市南常三島町1-1 徳島大学総合科学部 第11回学術集会事務局 中安紀美子
TEL & FAX 088-656-7204
- 5) 参加費：振込用紙でお送りください。
- 6) 交通：JR徳島駅からバスで10分「助任橋」下車 徒歩7分
- 7) 宿泊：宿泊申込用紙をご利用ください。

●ホットニュース●

「医療的ケア」をめぐる情勢

徳山美智子（愛知女子短期大学）

医療的ケアをめぐる問題は、養護教諭の職務、ひいては、養護教諭制度の根幹を揺るがす問題を内包しているという見方があります。

このような状況下で、本年1月、厚生労働省が従来の医療的ケアを医療行為とし、この医療行為は看護師ができるとしました。また、長野県が特区構想として「養護学校内の看護師免許を有する養護教諭による比較的簡単な医療行為の容認」を提案し、それに対する措置として「現行制度においても実施可能であるが、今後、養護学校内の看護師免許を有する養護教諭等が医師の指示の下で比較的簡単な医療行為を養護学校内の校務として行うことができることを明確にする」との考えが示されました。2月には、日本教育新聞が「文部科学省は、この特区の提案内容を全国に広める意向である」と報道しました。これらに対する緊急対応として、全国養護教諭連絡協議会、日本教育大学協会全国養護教諭部門、私立大学養護教諭養成研究会、全国私立大学・短期大学部養護教諭養成課程研究会の代表者等は即座に連携し、文部科学省学校健康教育課長等と面談を行うと共に、文部科学省・厚生労働省の関係者に要望書を提出しました。その趣旨は、「養護教諭は、看護師免許の有無にかかわらず、『医師の指示の下、学校管理下において行われる比較的簡単な医療行為（従来の医療的ケア）が可能である』ということ認めてほしい」との内容でした。その後、この要望事項を達成するための諸活動を円滑に行うために4団体の代表者による「養護教諭連絡会」が結成されました。しかし、この要望書に対する回答は、まだ出ていません。

一方、5月13日、厚生労働省の分科会は、検討中であった医療行為とされる痰の吸引について、自宅で療養するALS患者に限り、医

療行為との解釈を変えないまま、十分な訪問看護体制が整うまでの措置として、一定の条件下（主治医か看護師から吸引方法の指導を受ける、患者自身が文書で合意する、主治医らとの緊急時の連絡・支援体制の確保）でホームヘルパーにも認めるとする最終報告をまとめました。この内容と、先の要望内容とは関係が深いとの見方もあります。

今後も、文部科学省並びに厚生労働省そして日本医師会・日本看護協会・日本小児神経科学会等の動向を視野に収めつつ、どうすることが、障害を抱えつつ必死に生きようとする子どもたちの命を護り、彼らが望む生涯を保障することにつながり、かつ支援者である養護教諭のアイデンティティの確立につながっていくのか再確認する必要があります。

今こそ学会員の叡智を結集して、最善の方策を施策に活かす方途を導き出す必要があると考えます。

「養護教諭」の英訳作業について

理 事 会

2001年度から2ヶ年にわたって活動した英訳ワーキンググループは、第10回総会で提案された「『Yogo Teacher』の説明文を考える」という課題に対して、次のような案をまとめました。この検討経緯については第10回学術集会（鈴鹿）で鎌田代表が報告しています。

そこで、この説明文に対するご意見を募ります。会員の声を反映させながら、今後の作業を進めていきたいと思っておりますのでよろしくご願ひ致します。（締切：事務局に2003年6月30日必着）

養護教諭とは

「学校におけるすべての教育活動を通して、ヘルスプロモーションの理念に基づいた健康教育と健康管理によって子どもの発育・発達への支援を行う特別な免許を持つ教育職員である。」

学会誌第7巻投稿原稿の募集

「日本養護教諭教育学会誌」第7巻第1号の原稿を募集しています。

養護教諭の実践、養成教育や現職教育に関する調査などを研究論文にまとめて投稿してみませんか？ 会員が相互に研究成果を交換し合い、それを実践で検証し、さらなる研究と積み重ねによって、より質の高い養護教諭のあり方を追及していけたらと思っています。積極的な投稿をお待ちしています。

1. 投稿資格：本学会の会員に限ります。
2. 原稿の種類：論壇、総説、原著、研究報告、実践報告、資料、その他です。
3. 募集期間：年間を通して受け付けていますが、第7巻第1号の原稿の最終締め切りは、2003年9月30日です。
4. 投稿方法：B5判横書きで3部（内2部は査読用なので著者名、所属を記入していないもの）作成し、学会事務局に送付してください。原稿枚数や執筆要項等の詳しいことは学会誌第6巻第1号に掲載の「投稿規定最終改正2001年10月7日」をご覧ください。
5. 問い合わせ先：ご不明な点がございましたら学会事務局にお問い合わせ下さい。

なお、査読が終了し、受理された論文から掲載しますので、早めに投稿されることをお勧めします。また、受理までに長期間を要する場合は、第8巻以降の掲載になることもありますので念のため申し添えます。

研究助成金申請者の募集

日本養護教諭教育学会では、会則第3条2に定める研究事業の一環として特色ある研究に対して助成を行っています。助成金は現在のところ些少ではありますが、会員の研究意欲を支援し、その研究成果を公表することによって学会全体の研究活動の活性化を図るものです。そこで、2003年度の研究助成金申請者の募集を下記の要領で行います。奮ってご

応募ください。

応募に際しては、以下の規定を周知のうえ、下記の「記載事項」に基づく研究助成金申請書を学会事務局あてに6月30日（消印有効）までに送付して下さい。

【応募方法】 下記の記載事項によって申請書を作成し、封筒の表に「研究助成」と朱書して、学会事務局に郵送する。

【応募資格】

応募者は2003年度学会費を納入している本学会の会員に限る。

【研究期間と助成金】

研究期間は1年を原則とする。但し1年に限り延長することができる。なお、その場合は2年次にも改めて申請をして審査を受けるものとする。これまでの助成金は1件あたり5万円である。

【研究成果の報告】

研究助成金を受けた研究は、その成果を学術集会及び学会誌に発表しなければならない。期限は、原則として研究助成期間終了後1年以内とする。

【研究課題の選考】

助成を行う研究課題は、理事会において審議し、総会で承認を受けて決定する。なお、理事会では、特色ある研究であること、研究目的が明確であることなどを基準として審査する。

「2003年度研究助成金申請書」への記載事項

1. 研究テーマ（新規・継続の別）
2. 研究期間（1年・2年の別）
3. 研究者

◇ 代表者（氏名、所属機関・住所・Tel/Fax、自宅住所・Tel/Fax）

◇ 共同研究者（氏名、所属機関・住所・Tel/Fax）

4. 研究計画

「研究の目的」「研究の方法」「研究の独自性」「研究のスケジュール」

◆なお、この申請書は原則としてワープロで作成し、A4サイズ用紙2枚以内とする。

2003年度学会共同研究 の発足について

第11回総会において承認された学会共同研究「養護教諭の実践の評価について－研究の成果をどう生かすか－」が下記のメンバーによってスタートしました。

◇研究メンバー：代表 江寄和子（京都市立崇仁小学校）、大川尚子（関西女子短期大学）、木村龍雄（大阪教育大学）、楠本久美子（四天王寺国際仏教大学短期大学部）、下村淳子（愛知教育大学附属高等学校）、辻立世（鈴鹿国際大学短期大学部）、外山恵子（愛知県立豊明高等学校）、松嶋紀子（大阪教育大学）

なお、総会での報告は江寄・楠本会員の他若干名による研究とのことでしたが、十分な研究成果をあげていくために上記8名で発足したいとの要望が出され、前理事会及び新理事会の合同会議の場で検討した結果、事情を勘案して承認することにしました。

研究班には、研究計画の段階でメンバーを明確にすることが助成金申請の通常の手続きであることから、今回の対応は特例であること、よって、これからの研究成果に期待したい旨を伝えました。

会員の皆様におかれましては、事情をご理解いただき、合わせて今後の研究助成金申請にあたっては記載事項の熟考をお願いしたいと思います。

理事会等の活動報告

（2002年7月以降）

理事会等の活動は次のとおりです。

☆ 理事会

1. 2002年度 第1回

日 時：2002年7月20日（土）15:00～19:00

場 所：かながわ県民活動サポートセンター（横浜市）

出席者：理事6名（大谷、石原、楠本、後藤、下村、村瀬）第10回学術集会実行委員長（小林）

内 容：2002年度事業年間計画、第10回学術集会の企画と運営、第11回総会について

2. 2002年度 第2回

日 時：2002年10月4日（金）16:00～21:00

場 所：鈴鹿国際大学短期大学部（鈴鹿市）

出席者：理事6名（大谷、石原、楠本、後藤、下村、村瀬）

内 容：第10回学術集会について、第11回総会の準備、2001年度会計監査報告、研究助成金対象研究の選定、英訳ワーキングの報告について

3. 2002年度 第3回

日 時：2003年2月16日（日）9:30～14:40

場 所：かながわ県民活動サポートセンター（横浜市）

出席者：理事5名（大谷、石原、後藤、下村、村瀬）

内 容：2002年度各事業の総括、2002年度会計中間決算報告、賛助会員の募集について

4. 2002年度 第4回

日 時：2003年4月6日（日）9:30～12:00

場 所：愛知県中小企業センター（名古屋市）

出席者：現理事6名（大谷、石原、楠本、後藤、下村、村瀬）、新理事7名（天野、植田、後藤、竹田、徳山、村瀬、山崎）

内 容：第Ⅱ期事業の総括及び引き継ぎ

5. 2003年度 第1回

日 時：2003年4月6日（日）13:30～17:00

場 所：愛知県中小企業センター（名古屋市）

出席者：理事7名（天野、植田、後藤、竹田、

徳山、村瀬、山崎) 第11回学術集会
実行委員長(中安)

内容: 新理事長選出、新理事の役割分担、
年間事業活動計画、第11回学術集会
の準備状況について

☆ 編集委員会

1. 2002年度 第1回

日時: 2002年7月20日(土)13:00~15:00
場所: かながわ県民活動サポートセンター
(横浜市)

出席者: 編集委員8名(後藤、天野、石原、大
谷、下村、竹田、村瀬、山崎)

内容: 新編集委員の紹介と役割分担、2001
年度学会誌編集決算報告と2002年度
学会誌編集予算案、日本養護教諭教育
学会誌第6巻第1号の企画、「ハー
モニ」29号発行の準備状況と30号
企画(案)について

2. 2002年度 第2回

日時: 2002年10月5日(土)20:30~21:30
場所: ホテルグリーンパーク鈴鹿(鈴鹿
市)

出席者: 編集委員9名(後藤、天野、石原、大
谷、楠本、下村、竹田、村瀬、山崎)

内容: 日本養護教諭教育学会誌第6巻第1
号の編集作業計画、査読者決定、
「ハーモニ」30号の企画

3. 2002年度 第3回

日時: 2003年2月15日(土)13:00~21:00
場所: かながわ県民活動サポートセン
ター・いせやま会館(横浜市)

出席者: 編集委員8名(後藤、天野、石原、大
谷、下村、竹田、村瀬、山崎)

内容: 日本養護教諭教育学会誌第6巻第1
号の掲載論文の決定、編集作業

・・・新入会員・・・

- 2002年9月10日~2003年3月末の入会者
会員ナンバー、氏名、所属を掲載(敬称略)
- 512 竹下 智美(筑波大学大学院体育研究科)
 - 513 澤田 良子(竹原市立竹原中学校)
 - 514 丹羽 法子(京都市向島二の丸小学校)
 - 515 福田 二美(九州看護福祉大学)
 - 516 竹内 雅子(福井市進明中学校)
 - 517 伊藤 文代(神奈川県立東金沢高等学校)
 - 518 萩原 靖子(愛知県立海南高等学校)
 - 519 加藤 智子(秋田県立秋田西高等学校)
 - 520 高井 聡美(富田林市立小金台小学校)
 - 521 小川 浩子(国学院大学栃木短期大学)
 - 522 山平美代子(兵庫県立加古川西高等学校)
 - 523 杉村 直美(愛知県立安城高等学校)
 - 524 山寺 智子(長野県立松代高等学校)
 - 525 高田 薫
 - 526 真野 初美(日進市立日進東中学校)
 - 527 穴戸 洋子(飯野町立飯野中学校)



☆ 事務局の変更

学会誌第6巻第1号に掲載したとおり、
2003年4月より事務局が変更となりました。
ハーモニの表紙をご覧ください。

☆ 所属先の変更・連絡先の変更がありましたら、
至急、事務局までご連絡下さい(郵
送またはFax)。

☆ 第11回学術集会の参加費等の振込用紙・
演題申込票・宿泊申込用紙を同封しまし
た。多数のご参加をお待ちしております。

編集後記

新理事会が発足してから、最初に発行した
ハーモニです。原稿をお寄せいただいた
方々には、年度始めのお忙しい中をご協力い
ただき感謝申し上げます。(山崎)